

県文連ふくおか

題字 / 貫 正 義

令和6年9月

75号



九州文化を熱っぽく

別府市で
九州・沖縄文化団体
連絡会議



福岡県文化団体連合会

九州の文化交流、活発に

「九州はひとつ」というキャッチフレーズがある。これには「いや、九州は一つ一つだ」と、まぜっかえしも入る。まして、九州文化となると、一言では言い表せない多様さこそが、その本質だ。

だが、人々が親しみ、楽しむ文化芸術をいかに振興・発展させるか、の願いはひとつ。県境を越えた交流・連携を、と始まって、九州・沖縄文化団体連絡会議は今年の大分で23回目。

そんな交流の中から、3月には「ミスター吉野ヶ里」高島忠平さん（佐賀県芸術文化協会会長）の福岡特別講演が実現した。鹿児島大名誉教授で「篤姫」や「西郷どん」などの監修で有名な原口泉さん（鹿児島県文化協会会長）の、5年前の「明治維新150年」特別講座もそうだったし、九州域内の文化交流はいよいよ活発、多彩に繰り広げられている。

来年から「協議会」に呼称を変えて、各県持ち回りの開催は3巡目に入る。

※九州・沖縄文化団体連絡会議の詳細は15ページに掲載

もくじ

ポストコロナの文化を模索

●令和6年度執行部決まる……………	3	●日舞キャラバン、ゴール公演……………	14
副会長に浦田智子さん 常任理事5人が交代		●筑前琵琶全国大会……………	14
●令和6年度定例理事会……………	4	●11月9日にギターコンサート……………	14
会員の異動や事業計画、予算案など承認		特別個人会員の岩松知宏さん	
●県文化交流会……………	4	●九州・沖縄文化団体連絡会議……………	15
新たな芸術文化祭に準備を		大分県立美術館も視察	
●「ふくおか県芸術文化祭2024」を開催……………	6	●第79回県展が開幕……………	15
「県民文化祭」をリニューアル		●末永の森コンサート……………	16
10～12月、多彩な新規事業も		劇団ムツミが「カルメン」	
●学校等芸術家派遣事業……………	7	ワンコイン親子コンサートも	
●県民文化大、ふるさと文化講座折り返し、佳境へ……………	8	●九州交響楽団定期演奏会……………	16
●地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会……………	9	11月7日 太田氏、和太鼓の林英哲氏と共演	
「若返りの妙薬」をテーマに		12月6日 小泉氏、ブルックナー「第5番」	
9月26日、現状を踏まえ意見交換		●「大野城まち物語」2百冊を市に寄贈……………	17
●県民ふるさと文化講座現地探訪……………	9	●「文芸福岡」11号……………	17
筑後川流域の「水の文化」巡る		●時の記念日……………	17
●俳句……………	10	●「黄櫨」第80記念号……………	18
●短歌……………	11	貫会長が「こゝ発展期待」と祝辞	
●大宰府アカデミー 聴講記……………	12	麻生元知事、安部龍太郎氏も寄稿	
小さな町 膨らむブランド		●「直方見聞塾」講師も好評……………	18
●福岡杜の会、5年ぶり第2回展……………	13	●吉塚だより……………	19
東京藝術大学同窓会		県民文化祭をリニューアル	

令和6年度執行部決まる

県文連執行体制 (令和6年度)

役職	氏名
名誉会長	はっせい せい たい 誠太郎
会長	ぬき せい 正義
理事長	うだ けい 宣人
副会長	なだ せい 直人
〃	いし けい 純一
〃	うら せい 智子
副理事長	はやし だい ス マ
専務理事	えき せい ひ 彦
常任理事	きた せい 晋
〃	い せい 子
〃	やま せい 郎
〃	の せい 次
〃	の せい 夫
〃	きの せい 二
〃	よし せい 司
〃	たか せい 子
〃	かき せい 久
〃	の せい 江
〃	かた せい 健
〃	かば せい 徹
〃	きの せい 信
〃	の せい 透
監事	たか せい 登
〃	よね せい 翔
〃	いち せい 子
〃	まつ せい 一
参与	はら せい 江
〃	やま せい 子
調査役	かた せい 幸
顧問	まつ せい 吾
〃	なが せい 一
〃	かわ せい 夫
〃	い せい 巳

※太字は新任。



野見山 弘次 さん



山口 志郎 さん



浦田 智子 さん



木下 隆信 さん



高尾 康子 さん



吉田 宏司 さん

副会長に浦田智子さん 常任理事5人が交代

役員交代

令和6年度の県文化団体連合会の執行体制が決まった。6月28日、博多サンヒルズホテルで開いた定例理事会で、副会長3人のうち1人、常任理事17人のうち5人の交代が承認され、それぞれ新任者が紹介された。

副会長だった小林文子県人づくり・県民生活部長が3月末に退任したのに伴い、後任の浦田智子さんが副会長に就任した。

常任理事では、地域別団体の4

- ▽筑豊ブロック⇨吉田宏司(田川文化連盟会長(前任者は大分哲照飯塚文化連盟会長))
 - ▽京築ブロック⇨高尾康子(吉富町文化協会会長(前任者は森田喜富田町文化協会会長))
 - ▽分野別Ⅶグループ(若者・教育文化)⇨木下隆信(福岡県中学校文化連盟会長(前任者は高松大輔福岡県高等学校芸術・文化連盟会長))
 - ▽福岡Ⅱブロック⇨山口志郎(那珂川市文化協会会長(前任者は田中茂雄糸島市文化協会会長))
 - ▽北九州ブロック⇨野見山弘次(宮若市文化連盟会長(前任者は能間瀧次直方文化連盟会長))
- ブロック、分野別団体の1グループで交代が協議され、次の通り新任者5人が決まった。

令和6年度定例理事会

会員の異動や

事業計画、予算案など承認

令和6年度の県文化団体連合会定例理事会是6月28日、博多サンヒルズホテル瑞雲の間に77人が出席して開かれ、新たな執行体制と事業計画などを決めた。

第1号議案は会員の異動。令和5年度に福岡藤本会とバレエ・音楽国際交流文化協会がそれぞれ退会し



貴会長開会あいさつ

た。これで分野別の加盟団体は23団体となった。

特別個人会員は、福智町文化連盟前会長の永末良一さん、太宰府市文化協会の杉山綾野さん、ギター奏者の岩松知宏さんが入会。大野美保子さん（令和5年9月逝去）、松尾久之さん、山口健二さんが退会した。特別個人会員は48人。

第2号議案は役員の選任で、浦田智子副会長のほか5常任理事の新任が承認された。（3ページに詳報）第3号議案は令和5年度の事業と決算の報告で事務局からの説明が承認された。39の主催事業、47の協賛事業を繰り広げ約14万6千人の参加



新入会の岩松さん(左)と杉山さん

を得た第31回ふくおか県民文化祭2023などの報告が主な内容。

令和6年度の事業計画案と予算案が第4号議案で、いずれも承認された。事業計画では「ふくおか県民文化祭」をリニューアルして新たなスタートを切る「ふくおか県芸術文化祭2024」の開催、学校等芸術家派遣事業（旧芸術体験講座）、県民文化大学講座、県民ふるさと文化講座などの実施、障がい児者や児童生徒の芸術文化活動推進に努めるほ

か、県文連の組織基盤の充実を図る。予算は総額3、591万4千円を計上している。
また、名称を変更して開催するふくおか県芸術文化祭2024の事業概要について、市村智子県人づくり・県民生活部文化振興課長（県文連監事）から報告があった。



定例理事会の様

交流会



宇田川理事長
あいさつ

県文化団体連合会の令和6年度交流会は6月28日、博多サンヒルズホテル瑞雲の間で、定例理事会に続いて開かれ、理事や特別個人会員ら83人が参加し

た。田中正直副会長が開会の言葉述べ、前年度に続いて県和太鼓友輪会の三角泰子さんの司会で和やかに進化した。
貴正義会長は「本年度から『ふくおか県民文化祭』は『ふくおか県芸術文化祭』として新たにスタートします。この名称変更を機に内容も一層充実するよう各団体は怠りなく準備を進めて

新たな芸術文化祭に準備を

県文連

ほしい」と激励を込めて会長挨拶を行った。

続いて、県文連の特別個人会員となつて間もない岩松知宏さんによるクラシックギターのミニコンサートがあった。岩松さんは福岡を拠点に活動しているクラシックギタリストで、この日はタンゴの名曲として知られる「ラ・クンパルシータ」など



岩松 知宏 さんのミニコンサート

83人が参加、ギター演奏も

3曲を披露。途中では、奏法の説明も加え、参加者をしぼしぼクラシックギターの世界に誘った。乾杯の音頭をとつたのは、宇田川宣人理事長。「昨年のおおか県民文化祭は全部で86事業を実施し、15万人近くの参加があった。大変な盛況で成功だった。この場を借りて皆さんにお礼を申し上げる」と感謝の言葉を述べた。

会場内のスクリーンでは、県文連の活動が映像で紹介された。常任理事会や定例理事会、県民文化大学講座や県民ふるさと文化講座、地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会、ふくおか県民文化祭などの模様

が次々と映し出され、令和5年度の活動を振り返った。

その後、懇談の時間に移り、参加者はコース料理を楽しみながら交流を深めた。場内ではクラオケも始まった。前年に続き春日市文化協会の稲田博子会長がトップバッターを務めて「夢一夜」を歌つたのを皮切りに貫

会長らが次々と自慢ののどを披露した。最後は、福岡県吟剣詩舞道総連盟の笠井栄俊さん、小塩晃楼さん、吉丸華城さんによつて恒例の博多祝い唄が歌われ、笠井さんの手一本で締めくくった。

最後に、林田スマ副理事長が「あらためて文化は本当に素晴らしいことを感じた」と閉会の言葉を述べた。

アトラクション

【ギターミニコンサート】
▽岩松知宏さん(特別個人会員)
【クラオケ】
▽稲田博子春日市文化協会会長
▽貫正義県文連会長▽堀井敏男
桂川町文化連合会会長▽喜田一博
久留米市三瀬文化協会会長

【博多祝い唄】
▽笠井栄俊県吟剣詩舞道総連盟会長、小塩晃楼同連盟副理事長、吉丸華城同連盟常任理事
【博多手一本】
▽笠井栄俊県吟剣詩舞道総連盟会長



堀井 敏男 さん



稲田 博子 さん



小塩 晃楼 さん、吉丸 華城 さん
笠井 栄俊 さん(左から)



喜田 一博 さん

「ふくおか県芸術文化祭2024」を開催

「県民文化祭」をリニューアル 10月12日、多彩な新規事業も

昨年度まで親しまれてきた「ふくおか県民文化祭」がリニューアルされ、令和6年度から「ふくおか県芸術文化祭」として新たなスタートを切る。10月から12月までの開催期間中に新規事業を含め多彩なプログラムが予定されており、県文連も会員団体とともに県芸術文化祭を盛り上げていく。

県民文化祭は、県文連設立の翌年の平成5年度に始まり、昨年度で31回を数えた。文化芸術に触れる機会を県民に提供し、文化団体に発表と交流の場を提供してきたが、一方では「若者の参加者が少ない」「イベントに参加する時間がない人が多い」などの課題もあった。大幅にリニューアルする、ふくおか県芸術文化祭の新規事業は、オープニングフェスのほか▽次

ふくおか県芸術文化祭2024開催予定一覧

事業区分	開催日	事業名	開催地	会場
分野別事業12	合唱	ヴォーカルアンサンブル・フェスティバル	飯塚市	イツカコスモスコモン
	太鼓	福岡県和太鼓フェスティバル	篠栗町	クリエイト篠栗
	吟剣詩舞	福岡県吟剣詩舞フェスティバル	春日市	春日市ふれあい文化センター
	俳句大会	俳句大会	福岡市	ホテルニューオータニ博多
	短歌大会	短歌大会	福岡市	JRE天神クリスタルホール
	県民茶会	第32回県民茶会	朝倉市	美奈宣神社(林田)境内
	筑前琵琶	筑前琵琶鑑全国大会	福岡市	大濠公園能楽堂
	押し花	押し花フェスティバル	福岡市	アクロス福岡交流ギャラリー
	中文連	令和6年度京築地区中学校総合文化祭	みやこ町	サンブレードみやこ
	バレエ	第16回バレエフェスティバル	大野城市	大野城まどかぴあ
	詩人会	この星に生きる～詩歌の岸辺にて～	福岡市	福岡市美術館ギャラリー
	県展	第79回福岡県美術展覧会(県展)	福岡市他4市	福岡県立美術館他4会場
地域別事業9	福岡市	第19回福岡文化連盟祭りアートビエンナーレ福岡2024	福岡市	福岡市美術館 大濠公園日本庭園茶会館
	北九州市	「西郷札」演劇公演	北九州市	J:COM北九州芸術劇場中劇場
	福岡Iブロック	福岡Iブロック芸術文化のつどい	宇美町	宇美町中央公民館
	福岡IIブロック	第27回福岡IIブロック「芸術の祭典」in糸島	糸島市	伊都文化会館
	北九州ブロック	北九州ブロック芸術のつどい	直方市	ユメニティのおがた
	北筑後ブロック	ふくおか県芸術文化祭2024北筑後ブロックinうきは	うきは市	うきは市文化会館「白壁ホール」
	南筑後ブロック	南筑後ブロック芸術フェスティバル	大川市	大川市文化センター
	筑豊ブロック	吟声を聴く筑豊吟詠大会	大任町	OTOレインボーホール
	京築ブロック	第25回京築ふるさと文化祭	吉富町	吉富フォーユー会館 吉富町体育館

代を担う子どもたちの文化芸術鑑賞・体験事業▽地域文化芸術創造事業▽伝統芸能魅力発信事業がある。オープニングフェスでは、芸術文化祭の開幕を県民にアピールし、10月5・6日開催のメイン会場(天神中央公園)や10月12日のサテライト

会場(イオンモール八幡東)でステージイベントやブース展示などを実施する。次代を担う子どもたちの文化芸術鑑賞・体験事業では、主に小・中学生を対象にした鑑賞・体験イベントを実施し、プロの芸術家や伝統芸能継承者を小・中学校などに派遣する。地域文化芸術創造事業は、各地で活動する文化団体の新しい取り組みを支援し、地域に根ざした活動の定

着を図る。また、伝統芸能魅力発信プログラムが展開される。県の主催事業など、盛りだくさんの開催、



学校等芸術家派遣事業

プロのアーティストを学校に派遣して、子どもたちに真の芸術を体験させる「芸術体験講座」は、今年から「学校等芸術家派遣事業」としてリニューアルされたが、当初から数えて20回を迎える。

ジャンルは演劇、音楽、邦楽・伝統芸能、総合芸術から県内で活躍するプロ芸術家の24集団・個人の登録を受け、学校側の要請に応じて派遣している。今年度は17のプロ集団が参加する。

前身の芸術体験講座は平成17年度から県内の小・中学校児童生徒を対象に行っており、24年度からは特別支援学校も加わった。今年度から児童養護施設と病院の院内学級も対象に加え、派遣先も昨年の12校から33校に拡大された。この20年間に累計518校で実施したことになる。



ミュージック コンソート(大堰小)



福岡ホルンアンサンブル(新延小)

令和6年度 学校等芸術家派遣事業実施校等 (予定)

市町村等	学校等名	講座名	開催日	芸術団体名
北九州市	高 槻 小	音楽	9月 3日 (火)	ふれあいコンサート実行委員会
	牧 山 小	音楽	10月 8日 (火)	九州打楽器合奏団
	ひ ま わ り 中	総合芸術	10月17日 (木)	Office ツールース
	鞘 ケ 谷 小	音楽	10月29日 (火)	ふれあいコンサート実行委員会
	枝 光 小	伝統芸能	11月15日 (金)	子どもに能楽を勤める会
	朽 網 小	音楽	11月21日 (木)	九州打楽器合奏団
	鴨 生 田 小	伝統芸能	11月21日 (木)	和楽団ジャパンマーベラス
福岡市	塩原小特別支援学級	音楽	11月16日 (土)	福岡ホルンアンサンブル
大牟田市	大 正 小	伝統芸能	10月25日 (金)	福岡大蔵会
久留米市	水 分 小	ダンス	9月25日 (水)	福岡県ダンススポーツ連盟
	西 牟 田 小	伝統芸能	11月11日 (月)	福岡大蔵会
	上 津 小	伝統芸能	11月22日 (金)	福岡市能楽協議会
	金 丸 小	伝統芸能	12月 2日 (月)	福岡大蔵会
直方市	感 田 小	音楽	11月22日 (金)	ふれあいコンサート実行委員会
	下 境 小	伝統芸能	11月26日 (火)	和楽団ジャパンマーベラス
小郡市	御 原 小	音楽	9月26日 (木)	福岡ホルンアンサンブル
太宰府市	太 宰 府 東 中	音楽	11月28日 (木)	福岡ホルンアンサンブル
那珂川市	那 珂 川 中 後 野 分 校	総合芸術	11月18日 (月)	Office ツールース
宇美町	宇 美 東 小	伝統芸能	12月11日 (水)	和楽団ジャパンマーベラス
添田町	落 合 小	演劇	9月 2日 (月)	大体2mm
	真 木 小	総合芸術	9月19日 (木)	Office ツールース
赤村	赤 小	演劇	9月13日 (金)	劇団さんぽ
築上町	上 城 井 小	総合芸術	12月11日 (水)	Office ツールース
	西 角 田 小	音楽	11月11日 (月)	SION
県立	福 岡 特 別 支 援	音楽	9月 3日 (火)	九州打楽器合奏団
	古 賀 特 別 支 援	音楽	11月 5日 (火)	ふれあいコンサート実行委員会
	糸 島 特 別 支 援	伝統芸能	12月18日 (水)	和楽団ジャパンマーベラス
北九州市立	小 倉 南 特 別 支 援	ダンス	11月22日 (金)	シン・ダンシング・ブリーズ
児童養護施設	報 恩 母 の 家	伝統芸能	10月20日 (日)	和楽ユニット風絃
	双 葉 学 園 みのり	演劇	10月26日 (土)	結実企画
	白 梅 学 園	演劇	12月25日 (水)	プレイ集団・You遊
院内学級	九 州 大 学 病 院	音楽	9月 4日 (水)	ミュージック コンソート
	久 留 米 大 学 病 院	音楽	9月19日 (木)	九州打楽器合奏団

(注)開催日は、変更になる場合があります。

県民文化大、ふるさと文化講座

折り返し、佳境へ

酷暑の8月は一休みした県民文化大、県民ふるさと文化講座は9月19日から後半に入ります。

県民文化大は、正田啓佑福岡女子大名誉教授の「呂坤と『呻吟語』(外編)を読む」が後半へ。呂坤(1536-1612)は中国明末の儒学者・政治家で鋭く政治を批判した人物。その著『呻吟語』研究は、正田先生がライフワークとされています。呂坤をはじめ、歴史上の人物から何を学ぶべきか、講義には一段と熱が入ることでしょう。

県民ふるさと文化講座は、街道シリーズ、川と水辺シリーズに続く、令和6年度の「ふるさとの山々 信仰と祈りの文化」シリーズがいよいよ佳境に入ります。

9月19日、求菩提資料館館長、栗焼憲児さんの「求菩提山 山伏の祈り 神楽と芸能」を皮切りに、天拝山、嘉穂アルプス(馬見山・屏山・古処山)、高良山、英彦山と続きます。朝夕仰ぐふるさとの山々の、新たな顔が見えてくるようです。

会場は、アクロス福岡2階セミナー室で、毎月第3木曜日の午前10時半から県民文化大、午後1時からふるさと文化講座。いずれも90分。

受講料は1回1000円。申し込みは県文連事務局へ。電話092-643-2875、ファクス092-643-2876。



～ふるさとの山々 信仰と祈りの文化～

アクロス福岡2階セミナー室
13:00～14:30

「呂坤と『呻吟語』」

～『呻吟語』(外編)を読む～
アクロス福岡2階セミナー室
10:30～12:00

日程	テーマ	講師	テーマ(講師:正田啓佑)
9月19日(木)	求菩提山 「山伏の祈り 神楽と芸能」	求菩提資料館 館長 栗焼 憲児	巻四、品藻篇② 明代の儒学における場合
10月17日(木)	天拝山 「太宰府の南山・天拝山」	筑紫野市文化財課課長 (歴史資料館館長) 小鹿野 亮	巻五、治道篇① 理想の政治の在り方から 明代の政治について
11月21日(木)	嘉穂アルプス(馬見山・屏山・古処山) 「馬見山・古処山・屏山の歴史と文化史」	日本経済大学経済学部 教授 竹川 克幸	巻五、治道篇② 当時における政治批判から考える
12月19日(木)	高良山 「高良山 その歴史と文化」	高良大社 学芸員 佐藤 来未	巻六、人情篇 人の心とは如何に在るべきか
令和7年 1月16日(木)	英彦山 「英彦山と邪馬台国」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	巻六、広喩篇①
2月20日(木)	四王寺山 「四王寺山と神武天皇」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	巻六、広喩篇②
*注 第2木曜日です。 3月13日(木)	麻氏良山 「麻氏良山と斉明天皇」	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	全体のまとめ

*状況により日程・内容は、変更する場合があります。その際には、事前にご連絡いたします。

「若返りの妙薬」をテーマに
9月26日、現状を踏まえ意見交換

令和6年度の地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会は、9月26日午後、福岡市博多区の吉塚合同庁舎3階研修室で開催する。

各文化協会や文化団体メンバーの高齢化の問題がいわれて久しいものの一気に解決する手段はなかなか見いだせないのが現状。第1部のフォーラムでは「若返りの妙薬はいかが？ まずは話だけでも」をテーマに3団体のメンバーが登壇する。各団体の現状や取り組み、若い人たちの考えを直接聞きながら改善に取り組むヒントを探る。

登壇者は、古賀市文化協会の吉田義徳会長、森部忠彦副会長、石川純子副会長、太宰府市文化協会の杉山綾野さん、北九州文化連盟の和田正人専務理事を予定している。

第2部の意見交換（ワールドカフェ方式）のテーマは「若返りの妙



長崎県立大学教授 鳥丸 聡 さん

薬ってある?! 私たちの体験からフォーラムでの問題提起や発言を基に、参加者全員で意見を交わし、今後の取り組みについて考える。ファシリテーターは長崎県立大学教授の鳥丸聡さん。

参加申し込み、問い合わせは県文連事務局へ。

■「令和6年度地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会」

9月26日午後1時半～4時半

吉塚合同庁舎3階研修室

事務局092（643）2875

筑後川流域の「水の文化」巡る

令和5年度の県民ふるさと文化講座「川と水辺から辿るふるさとの文化史」の一環として3月13日に現地探訪「筑後川流域「水の文化探訪」があった。20代から90代までの14人が参加し、講師の竹川克幸日本経済大学教授の解説で筑後川流域の水に関わる歴史と文化を体感した。

一行は福岡市の天神に集合した後、貸し切りバスで朝倉市へ。清流「黄金川」で江戸時代の18世紀に発見された天然の淡水ノリ川茸（スイゼンジノリ）を生産販売している川茸元祖遠藤金川堂を訪れた。黄金川での実際の収穫作業や屋内での選別作業を見学、スイゼンジノリに関するの紙芝居を見て、自然と共生しながら受け継がれている川茸の収穫や製造の歴史を学んだ。

同じ朝倉市内の山田堰は、江戸時代に干ばつで苦しむ農民たちを救うため筑後川に設けられた井堰で、現在も652ヘクタールの農地を潤し

ている。参加者は、展望広場から水門や導水路、砂利吐きなどを見学、水神社に参拝した。広場のそばには、この山田堰をモデルとしてアフガニスタンに取水堰を築造し、2019年に亡くなった中村哲医師の記念碑が建てられており、志半ばで不慮の死を遂げた医師をしのんだ。

山田堰を見下ろす恵蘇八幡宮は、朝倉地域の総社で661（斉明7）年に建立されたという。境内には天智天皇ゆかりの漏刻（水時計）のモニュメントがある。毎年6月10日（時の記念日）に式典が催されており、一行は古代からの水との関わりを思いをはせた。



山田堰にて

俳句

「青嶺」主幸 岸原清行

「青嶺」は平成十三年、「地平」継承。師系は野見山朱鳥、児玉南草。岸原は現在、俳句協会顧問、(社)俳人協会名誉会員。

初 蟬

初蟬を誘ひ出したる祝詞かな
夏越祭戦禍を祓へ鎮め給へ
振花の階を登れば疫なき穹そら

「さわらび」主幸 介弘紀子

昭和二十二年、川上朴史が大牟田で創刊。平成三十年第四代主幸となる。師系は、稲畑汀子、稲畑廣太郎。客観写生、花鳥諷詠を理念とする。(公・社)日本伝統俳句協会理事。

玉 虫

玉虫の死して天与の彩褪せず
骸なほ威風堂堂兜虫
風を抱き空蟬祈り解かざりし

「玄海」主幸 大石靖子

「玄海」は平成六年、小島隆保が博多で創刊。師系は高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠の理念を現代の視点で問いつける。平成二十八年三代目主幸となる。

水 遊

飛沫てふ歓声上ぐや水遊
だんだんに白熱といふ水遊
水遊して子らはみな神の子に

「自鳴鐘」主幸 寺井谷子

「自鳴鐘」は、昭和十二年横山白虹により創刊、二十三年に復刊。平成十九年横山房子逝去により主幸継承。現代俳句協会特別顧問。

庭 誉め

炎天を来し怒りもて木を叩く
ひたくと木を叩つことも風の道
庭誉めて頭を下げて過ぐサングラス

「天籟通信」代表 福本弘明

昭和四十年、穴井太が北九州市で創刊。高く遊ぶことを旨とし、自由で個性豊かな集団を目指す月刊同人誌。現代俳句協会副会長を務める。

むね肉

むね肉の観音開き新ワイン
秋の蝶勝負所を間違えて
白桃や長じて薄きものばかり

「冬野」主幸 持永真理子

「冬野」は、大正十二年創刊。令和三年二月、五代目の主幸継承。師系、高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠を信条に面白みのある句を目指したい。

ス コ ー ル 来

里宮の戦没者碑や夏椿
蒼海に不戦を誓ふ雲の峰
ジャングルに眠る遺骨やスクール来

「光円」主幸 服部たか子

「光円」は「円」終刊を継ぎ平成二十年七月、田代朝子の下に創刊。二十七年主宰交代。師系は岡部六弥太。自然と人の交響を詠む。

五 輪

熱風が悪魔のやうに入り来る
灼くる日や玄関前線とはこれか
五輪見し子か炎天へ拳突く



ふくおか県芸術文化祭
2024俳句大会
令和6年11月20日(水)
ホテルニューオータニ博多

【俳誌名五十音順】

短歌

塾生があかね先生と走り来て「今日の鬼ごっこ面白うてねえ」
算盤を使って予算を組みながら残り少なき余生を生きん

大内マツノ
「八雁」

ゆつくりと青田を渡る熱風が球体となりてわたしを包む
どうしてもE・Tに見える里芋の茎葉が夕の風に戦げり

山本 道子
「となみ」

朝靄を振るはせ戻る白き船発光体のごと現はるる
まなぶたの無き魚の眼のその底に染みてはをらむ海の青色

古賀 耀子
「やまなみ」

月曜の週始まりの手帳では踏み切る助走の足りない私
開けられて修理されいる改札機なかにひとつの都市あるごとし

重松美智加
「未来」

ふくをか夏の夏の終わりを切り取りてスカイホイールゆつくり廻る
「主人公がわたしと似てる」角川のつばさ文庫に児が浸る夏

柴田 香
「水甕」

猛暑の中「黒田如水と連歌」

太宰府市の最高気温38・3℃。35℃以上の猛暑日が連続40日となり、これまでの全国最長記録を更新した。令和版「大宰府アカデミー」の第17講は、そんな猛暑の8月21日午後、太宰府五条の岡にそびえる日本経済大学KOROKAN 4階の大講義室で開かれた。福岡市博物館総館長、中野等さんの講義「福岡藩・黒田家と太宰府」黒田如水を中心に「」だった。

福岡城ができる前の一時期、太宰府天満宮の一角、「如水の井戸」の庵で暮らした官兵衛こと黒田如水。連歌の神様、菅原道真公への尊敬篤く、連歌奉納に明け暮れた、という。

有名な「夢想の連歌」の起句
松むめや末ながかれとみどり
たつ山よりつづくことはふく岡
は福岡の地名の由来ともされる。

中野さんの講義は、連歌を媒介とする如水と宮司大鳥居信岩との結びつきを説き明かした。

連日、熱中症アラートが叫ばれたこの夏。猛暑のこの日、いつもよりはちらほら空席が目についた。さすがに外出を控えた人もあったのだろう。それでも400人余の受講生は真剣に聞き入っていた。

「検定」に続く応募殺到

令和版「大宰府アカデミー」の2年目も後半に入るが、それにしてもこの盛況ぶりは何なのだろう。7不

大宰府アカデミー

令和編 聴講記

公益財団法人古都大宰府保存協会設立50周年記念事業



思議の一つに数えたい。

昨年春、古都大宰府保存協会が始めた時、受講申し込み450人、県外からはオンラインの受講申し込みも、と聞いた。

平成24年(2012)、同協会が「大宰府検定」を始めたとき、全国から応募を含めて750件もの反応があつて驚かされたのを思い出す。一言で言えば、大宰府の持つナショナル・ブランドのすごさ、だろう。

小さなまち 膨らむブランド

万人超と言われる年間観光客はさらに増える勢いだ。西鉄の大宰府―博多駅シャトルバス「旅人」は常時超満員。ますますのドル箱路線になっている。

おなじみの講師も登壇
大宰府アカデミーに戻る。昨年春、大宰府の成立、つまり古代の大宰府から始まった講座は、2年目の本年度は、中世、近世・近現代の大宰府がテーマになっている。

8月の第17講で、近世・近現代に入った。次回9月18日は、県文連にはすっかり、おなじみの竹川克幸日本経済大学教授

道真公の天満宮だけではない。水城、政庁跡、大野城の特別史跡をはじめ、史跡、文化財など豊富で、九州国立博物館もある。2021年には、古代日本の「西の都」東アジアとの交流拠点」として日本遺産に指定されたし、さらに「令和の里」も加わった。

コロナ禍も一段落、再びインバウンドもよみがえって、天満宮参道はかつてない賑わいようだ。1000

(県文連調査役)が登壇、「幕末・維新期の太宰府」五卿の警備・応接と志士の周旋」を講義する。

今回の大宰府アカデミーは、学長が東大名誉教授で横浜市歴史博物館長の佐藤信さん、副学長は福岡県文化財保護審議会委員の森弘子さんと大野城心のふるさと館館長の赤司善彦さんの二人。このほかの講師陣の多彩さにも圧倒される。地元の大学や機関はもちろん、東大、東北学院

大、早稲田大など全国に広がる。
森さんや竹川さんには、県文連ふるさと文化講座に登壇してもらったが、7月のアカデミーで「戦国時代の大宰府と山城」を講義した九州国立博物館主任研究員の岡寺良さんにも昨年、登壇してもらった。

水時計と最古の暦

これまでの講義で、中でも印象深かったのは、昨年9月の九州歴史資料館学芸員、酒井芳司さんの「大宰府の出土文字資料」だった。

—観世音寺近くで、不要な紙で蓋をした漆入りの容器が出土した。漆の作用で紙質は保たれているが、文字は目では読めない。赤外線カメラで、17行、380字が判読できた。奈良の朝廷が役所に配った、納税期などを書き具えた「具注暦」で、宝亀11年(780)正月部分だ、と分かった。九州最古の暦、というわけだ。

大宰府市は、天智天皇の7世紀、大宰府政庁東の月山(辰山)に漏刻(水時計)が設けられた歴史にちなんで「時の記念日の行事」を市民遺産に指定、毎年6月1日に市民運動

で行事を続けている。千二、三百年も前、大宰府は水時計だけでなく、カレンダーも備えた近代的な都市だったのだ。

今は昔「史跡指定反対」筵旗

新聞記者の駆け出しのころ、先輩にくっついて「大宰府歴史散歩」の連載を書き、本にもなった。西日本新聞が音頭を取った九州国立博物館

誘致キャンペーンには、ほぼ10年ほどかかわって、若手研究者たちと『ミュージアム九州』誌を発行した。

新聞社を卒業後、大宰府中央公民館プラム・カルコア館長を務めた時期もあって、大宰府への愛着は深い。

今は昔、駆け出しのころ大宰府取材で見かけた「史跡指定反対」の筵旗はシヨックだった。今は、ナショナル・ブランドを誇る市民たちにも、

さまざまな思惑が入り乱れ、苦悩があったに違いない。

人口は7万3千の小都市大宰府。古代日本の「西の都」で日本遺産になり、「令和の里」のイメージも加わってブランドの重みはグンと増したが、「歴史とみどり豊かな文化のまち」大宰府は、依然、控えめだ。(古賀透)

福岡杜の会、5年ぶり第2回展

福岡で活躍中の東京藝術大学美術学部同窓会有志によるグループ展「第2回福岡杜の会」展が7月8日から1週間、福岡市新天町のギャラリー風で開かれた。

出品者は、会員21人。このうち宇田川宣人さん(県文連理事長)は油彩・テンペラ「ハートとX」、小田部黄太さん(県美協理事長)は金属彫刻「関係性について 2024.7」、古本元治さん(九産大名誉教授)は油彩「The Big Island」をそれぞれ出品していた。



「杜の会」展

東京藝術大学同窓会

同展には、昨年6月、102歳で亡くなった抽象画家の野見山晔治さん、同1月、86歳で亡くなった、天神パサージュ広場のカバ親子像で知られる彫刻の柴田善二さんの作品も展示されていた。

戦争直前の1941年、前身の東京美術学校同窓生が同趣旨の展覧会を行ったが、戦後の混乱期などで途絶えていた。2019年に、福岡杜の会展として再興されたものの、コロナ禍で中断。5年ぶりの復活となった。

日舞キャラバン、ゴール公演

12月1日、福岡市民会館

長唄「君が代松竹梅」など

「ようこそ！日本舞踊の豊かな世界へ」の呼びかけで、日本舞踊協会がこの秋、列島縦断で繰り広げる「日本舞踊キャラバン」が、暮れにゴールの福岡入りし、12月1日、福岡市民会館大ホールで公演を行う。

当日の演目は、長唄「君が代松竹梅」「二人枕久」、清元「玉兔」、地唄「鉄輪」、長唄「連獅子」が予定されており、同協会福岡県支部会員が出演する。

全自由席で、入場料は一般6000円、25歳以下3000円、高校生以下1000円。団体割引、障害者割引がある。問合せは090-8664-7038へ。

「日本舞踊キャラバン」は、日舞の魅力を各地で存分に堪能してもらうことを目的に企画された。9月の岩手を皮切りに、10月新潟11月青森と続き、福岡で終結する。

各地元の舞踊家の出演はもちろんのこと、一流の邦楽演奏家の生演奏との共演が目玉。落語家の桂吉坊が、演目にもつわる話題や見どころを解説する。



公益社団法人日本舞踊協会は1955年の設立で、108流派、約3500人が所属している。全国26の支部があり、福岡県支部は、1986年の発足で、現在、会員数135人。花柳三枝君支部長。

筑前琵琶全国大会

11月16日「黒田節」大合奏で開幕

筑前琵琶福岡旭会は11月16日、大濠公園能楽堂で第93回全国大会を開く。日本旭会が共催で、ふくおか県芸術文化祭2024参加事業。

筑前琵琶発祥の地・福岡に参集、とあつて、オープニングの「黒田節」は、吟詠も入れて全国の会員で大合奏する。東京、千葉、大阪、奈良、岐阜など全国各地から奏者が参加する。

2曲目からは、古曲・新曲取り混ぜて独演、合奏など多彩に展開する。全27演目を予定している。

米村旭翔さん（福岡旭会会長）と原口旭愛

さん演奏の「安達ヶ原」は、日本舞踊家・藤間修一郎さんとの共演。また、米村さんらの「華道華の恵み」

は琵琶の合奏に合わせ新池坊の衛藤利雪さんが生け花を活ける趣向。

横笛の梶谷聖幸さん、藤舎元生さんも協力出演する。

11月16日当日は、午前10時半開演。入場料は2000円。問い合わせは092-1552-16309へ。



11月9日にギターコンサート 特別個人会員の岩松知宏さん

本年度に原文連特別個人会員となったクラシックギタリスト、岩松知宏さんのギターコンサートが11月9日午後3時から福岡市中央区天神2丁目のレソラホール（レソラ天神5階）で開かれる。

デヴィ・スカルノさんがプロデュースする2022年度の第2回イブラ・グラッド・アワード・ジャパンコンクールギター科最上位受賞と自身初のニューアルバム発売を記念して開催。「リベルタンゴ」「バラカ」などを披露する。デヴィ・スカルノさんも

スペシャルゲストとして出演する。当日、会場を移してコンサートとトークショーのグレイスフル・パーティーもある。

コンサートの入場料は6千円（当日千円アップ）。問い合わせ・申し込みは岩松さん080-(3958)9842。



4 議題を論議

九州・沖縄文化団体連絡会議

大分県立美術館視察も

令和6年度の九州・沖縄文化団体連絡会議が7月18日、大分県別府市の亀の井ホテル別府で開かれた。同連絡会議は、九州・沖縄の総合芸術文化団体の相互交流を図り、地方芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成11年度に始まり本年度23回目を迎えた。

今回は佐賀県を除く7県から、会議開催を担ったNPO法人大分県芸術文化振興会議の藤間次登理事長をはじめ、福岡県文化団体連合会の宇田川宣人理事長、各県の文化団体代表・事務局員の17人が出席して、各県の現状や課題について活発な意見交換がなされた。

教育機関との連携の具体例、文化団体事務局に対する人事面での県の支援、基本財産の運用としての有価証券の活用など、4議題が取り上げられた。教育機関との連携については、地域の言葉をできる限り残すための取

り組み、児童生徒が伝統的文化などを学ぶ機会の提供、こども芸術祭の実施など、での連携が報告された。事務局職員の採用では、直接ハローワークで公募するなど、県の支援がない文化団体が多かった。また、職員全員が非常勤の文化団体もあり、各県で相違が見られる。

有価証券の活用については、提案した宮崎県以外には実績がない。福岡県から提案した同連絡会議の各県開催3巡目となる令和7年度以降の開催については、事務局を福岡県とし、開催県が会議の進行などを行う現在の実施形態で継続することに参加の各県は賛同し、「連絡会議」から「協議会」への名称変更など、さらなる機能強化の方向性を踏まえ、事務局が引き続き作業を行うこととなった。

翌19日は大分市寿町の大分県立美術館で現地視察を行った。同美術館は、街に開かれた美術館として2015年4月に開館した。地上4

階、地下1階で、大分の伝統的な竹工芸をイメージさせる外観とガラス張りの開放感あふれる建物は世界的な建築家、坂茂氏らの設計による。館内には、巨大なバルーンのおブジェや布製の大シャンデリアなどもあり、参加者は太田誠・美術管理課副課長（総括）の説明を受けながら視察した。

2日間にわたり、NPO法人大分県芸術文化振興会議の皆さんの熱いおもてなしに一同感激した。来年度は、福岡県において開催される。



第79回県展が開幕

令和6年度ふくおか県芸術文化祭のトップを切って9月3日、福岡市天神の県立美術館で第79回県美術展覧会（県展）が開幕した。29日までの会期終了後、筑後展を皮切りに、県内4地区で巡回展を開く。

県立美術館での会期は、3日から8日までが彫刻・写真、10日から16日までが日本画・工芸・デザイン、18日から23日までが洋画、25日から最終日の29日までが書を、それぞれ展示する。表彰式は29日に行う。

この後、10月に入って、6日から12日まで大牟田文化会館で筑後展、16日から11月3日まで嘉麻市立織田廣喜美術館で筑豊展、11月6日から16日まで宗像ユリックスで宗像展、20日から24日まで北九州市立美術館で北九州展を行う。

末永の森コンサート

劇団ムツミが「カルメン」 ワンコイン親子コンサートも

劇団ムツミの旗上げ公演と銘打って、この秋の「末永の森コンサート」は9月14日午後3時、福岡市城南区七隈の末永文化センター大ホールで開く。

奏者は、ホルン木村睦美、トランペット小野本明弘、トロンボーン高井郁花、コントラバス竹本規矩也の九州交響楽団員に、ピアノは客演で山本朝子（敬称略）。

ハチャトウリアンのバレエ音楽「仮面舞踏会」よりワルツ、ストラビンスキーのブルチネルラ組曲に続いて、R・MASHIROの演出で劇団ムツミがビゼーの「カルメン」を披露する。

これに先立ち、午後1時から「ワンコイン親子コンサート」を40分間行うが、プログラムは当日のお楽しみ。

チケット申し込みは末永文化センター
092-8221-3338へ。

末永の森コンサートは前売り券1000円、当日券1300円。ワンコイン親子コンサートは前売り、当日いずれも500円。



劇団ムツミ

九州交響楽団定期演奏会

11月7日 太田氏、和太鼓の林英哲氏と共演
12月6日 小泉氏、ブルックナー「第5番」



太田・九響 & 林英哲

任憑！魂の響き

小泉の矜持、ブルックナー「第5番」



太田氏は、4月の就任記念定期演奏会に続いて、11月7日の定演でタクトを振る。和太鼓の第一人者、林英哲氏との共演で、和と洋のコラボレーションを演出する。九響合唱団も出演。

演奏曲目は、プッチーニ「4声のミサ曲」、小出稚子「博多ラプソディー」、石井真木「日本太鼓とオーケストラのための『モノプリズム』」。小泉氏は、12月6日の定演が、新ポスト初の指揮。曲目は、今年、生誕200年を迎えたブルックナーの「交響曲第5番」。ドイツ、オーストリアの古典派に精通する小泉氏ならではの、正統を極めた演奏が期待される。

いずれもアクロス福岡シンフォニーホールで、午後7時開演。問合せは九州交響楽団事務局

092-8222-8855へ。

昨年、創立70周年を祝った九州交響楽団が、今年、首席指揮者に太田弦氏、ミュージック・アドバイザーに篠崎史紀氏を迎え、新しい体制を整えた。10年余、音楽監督を務めた小泉和裕氏は終身名誉音楽監督に就任した。

『大野城まち物語』 2百冊を市に寄贈

まどかぴあ、心のふるさと館、公民館へ

県文連は5月9日、大野城市役所を訪れて、3月に発行したふるさと文化誌シリーズ第12弾『大野城まち物語』200冊を井本宗司大野城市長に寄贈しました。市では市民が手にして閲覧できるように、まどかぴあ図書館や心のふるさと館、各公民館などに配布します。

贈呈式には、県文連から古賀透同誌編纂委員会副会長、事務局の江崎雅彦専務理事兼事務局長、玉城勝則事業部長、地元大野城市文化連盟の中嶋真理子会長が出席し、同誌の執筆を主導した大野城心のふるさと館の赤司善彦館長も同席しました。

寄贈の様子は西日本新聞毎日新聞が報じたほか、5月1日付け「広報大野城」にも掲載されました。



市長贈呈式（左から3人目が井本市長、左隣は赤司心のふるさと館館長）

ふるさと文化誌 第13号

「大牟田まち物語」(仮題)

令和7年3月発行予定 鋭意執筆編集中

『文芸福岡』11号

特集は「花」

美術部門も参加

福岡文化連盟刊行の『文芸福岡』が、この春、第11号を数えた。多岐に渡る分野の会員が集う強みを生かし、文芸部門だけでなく、美術部門の会員も多数寄稿しバラエティーに富む、充実した内容になっている。

第11号は「花」を特集に据えており、表紙は、菜の花の画家、で知られる洋画家、田中公子さんの菜の花畑。巻頭に詩人、田中圭介さんの詩「花」と、華道の山本眸さんの活け花。続く特集グラビアページは俳

句、短歌、五行歌に絵画、洋画、写真が添えられていて、華やいだ誌面が繰り広げられている。

会員約60人が投稿し、文連おなじみの歌人、植村隆雄さん(県歌人协会会长、松本千恵乃さん(同会事務局長)、詩人の田島安江さん(県詩人会長常任理事)の作品洋画家、光行洋子さん(特別個人会員)と、県文連参との山村より子さんのエッセイもある。



時の記念日

7世紀、大宰府政庁の月山(旧名「辰山」)に漏刻と呼ばれた水時計が置かれていた歴史にちなんで、太宰府市民遺産になっている時の記念日行事は、今年も6月10日早朝行われた。主催の市民ボランティア組織「辰山会」の高瀬昭登さん(県文連監事)は「好天にも恵まれ、120人が参加して、盛況だった。市民の皆さんの理解、協力を得てこれからも引き継いでいきたい」と話している。



時の記念日行事風景

『黄櫨』第80記念号

貫会長が「ご発展期待」と祝辞

麻生元知事、安部龍太郎氏も寄稿

県南八女の地で生まれた「人生サークル黄櫨の会」(県文連賛助会員)の会誌『黄櫨』が、誌齢80号を迎え、8月に記念号を発行した。

表紙は、八女出身の文化勲章受章画家、田崎廣助の代表作『阿蘇山』で飾った。貫正義県文連会長の祝辞に続いて、巻頭には、早くからの寄稿者でもある元・福岡県知事の麻生渡さん、直木賞作家安部龍太郎さんの二人の好エッセイを掲載している。

貫会長は、人生史サークル黄櫨の

会は「全国的にも極めてユニークな、地元福岡生まれ」で、県文連としても「さらなるご発展を」期待すると祝辞を結んだ。

会員の投稿は、照る日くもる日、追想の記、一日一生、蛩雪之功、千思万考などの章に分かれて掲載されている。スーパージニアの章には、90歳以上の会員4人が自分史や闘病記を寄せている。

「人生史サークル黄櫨の会」は、27年前の平成9年(1997)、八女郡広川町長だった故・末安良行を代表世話人に発足した。高齢化社会にあって「生きる証として生きがいの再発見を」が合言葉で、会員は県外にも広がり170人に上る。今回の記念号には、創刊号の末安さんの発刊の辞と、八女出身の伝記作家、故・小島直記さんの祝辞を再録している。

「直方見聞塾」講師も好評

『県文連ふくおか』編集責任木下良弘さん

本号から『県文連ふくおか』編集を担当する木下良弘さん(県文連特別個人会員、調査役)は、元西日本新聞直方支局長で、直方文化連盟理事でもあり、かねて直方の文化運動にも深く関わっています。その経歴、

知見を活かして講師を務める「直方見聞塾」が好評を博しています。9月25日の塾では、儒学者貝原益軒を取り上げ、直方をたびたび訪れ、多賀神社の鳥居の銘文を書くなどの経歴や、『養生訓』『女大学』など旺盛な執筆活動について語ります。

これまで、少女林芙美子も夢中になったという流行歌第1号「カチューシャの唄」にちなんで歌謡曲の歴史

を論じ、直方ゆかりの俳人諸九尼、歌人阿部峯子に焦点を当て近世の女子旅を語っています。

この後、糟屋炭田の歴史遺産巡りや、唐津街道たどりも予定しているそうです。



直方見聞塾講義風景

お詫び・訂正

前号の『県文連ふくおか』「表紙の光景」文中に「女性二人を明治の政治家、中野正剛が評したという」とあるのは、中野正剛ではなく、社会運動家の頭山満でした。

県民文化大学の谷川佳枝子講師の講義に関連した記述ですが、筆者古賀の勘違いでした。谷川講師、読者の皆さんにお詫びして訂正します。なお、中野正剛は大正、昭和の政治家です。

黄櫨

第80記念号 2024.8



吉塚だより

ふくおか県民文化祭は平成5年（1993）にスタートした。県文連はその前年に発足しており、30年を越える長い道のりを共に歩んできた、いわば兄弟のようなものだ。

その間の最も大きなハイライトは何といっても平成16年に開催された「第19回国民文化祭2004」（愛称：とびうめ国文祭）であろう。

開会式とオープニングフェスティバルは、皇太子殿下（現天皇陛下）ご臨席のもとに開催され、期間中、県内全96市町村（当時）が参加して、バラエティーに富んだ全115事業が展開された。総観客数はそれまでの最多となる345万人に達した。

その第32回目を迎える今年、県民文化祭は「ふくおか県芸術文化祭」と名を改め、内容も新しい取り組みを加えて、リニューアルされる。

県民文化祭をリニューアル

文化祭の幕開きを飾るオープニングフェスティバルを福岡市と北九州市の2カ所で開催し、「伝統芸能博」、文化団体の取り組みを公募で支援する事業など新規事業が盛り込まれ、ガイドブックもタウン誌のようなポップなものになるという。

30年超の間続いてきた県文祭だが、それを担ってきた人は年々入れ替わって同じではないし、取り巻く環境も変わっていく。県文祭だけ「年年歳歳花相似たり」とはいかないのは当然のことだろう。より良いものへ向けたチャレンジは避けられない。と書いたところでふと自分が身を顧みて、赤面、汗顔。自分自身も県文連も変えるのをさぼってはいないだろうか。

（江崎）

福岡県文化団体連合会

平成4年（1992）11月、県内で活動する地域別の文化団体67、分野別25の計92団体が参加して結成。16年秋には、県と協力して第19回国民文化祭ふくおか2004（愛称「とびうめ国文祭」）を推進、大成功を収めた。創立以来、毎年、県民文化祭を開催するほか、県民文化大学講座など独自の文化企画を展開している。現在は地域別63団体、分野別23団体、特別個人会員48名が加盟。末端会員は推定20万人。

県文連ふくおか 75号

発行 令和6年9月

福岡県文化団体連合会

専務理事 江崎 雅彦

広報編集委員 古賀 透、木下 良弘

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50

TEL 092 (643) 2875

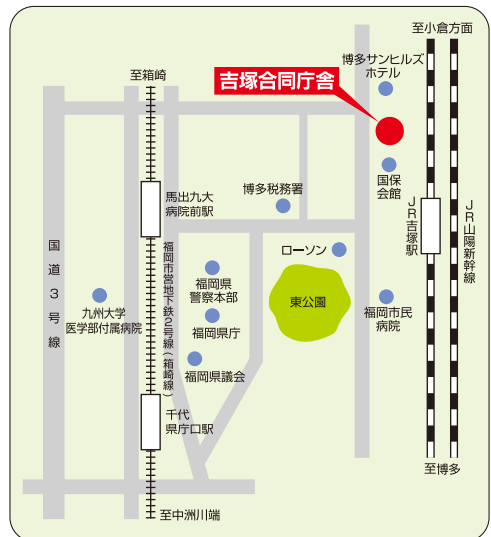
FAX 092 (643) 2876

印刷 川本印刷株式会社

〒812-0888 福岡市博多区板付二丁目5-20

TEL 092 (591) 5110

FAX 092 (591) 5113





ふくおかの文化をはつらつと

福岡県文化団体連合会

Fukuoka Prefecture Cultural Group Federation



ホームページは「県文連」で検索

県文連



賛助会員の紹介

▼ 企業 団体会員

- (公財)アクロス福岡
- アジア美術家連盟 日本委員会
- 飯塚信用金庫
- 一番食品(株)
- 英進館(株)
- (株)エルテックス・ヨシダ
- (有)海鳥社
- 九州電力(株)
- (公財)九州交響楽団
- (株)九電工
- (株)Q T net
- 久留米運送(株)
- (公財)末永文化振興財団
- 西部ガスホールディングス(株)
- (株)如水庵
- 人生史サークル黄櫨の会
- 蝶屋(株)
- (学)中村産業学園 九州産業大学
- (株)西日本シティ銀行
- 西日本鉄道(株)

▼ 個人会員

- 西日本プラント工業(株)
- 日本経済大学 地域連携センター
- (公財)日本習字教育財団福岡事務所
- (株)日本旅行九州法人営業部
- (株)ひよ子
- (株)ピアノターミナル・ナカムラ
- 福岡県教育庁部課長会
- 福岡県教育庁参事・補佐会
- (株)福岡銀行
- 福岡県信用保証協会
- ふくおかアジア文化塾
- (株)福岡こどもクラブ
- (NPO)文化ボランティア
- とびうめの会
- (株)山口油屋福太郎
- (50音順)
- 唐川 茂樹
- 岡 征二
- 王寺陽一郎

賛助会員の募集

福岡県文化団体連合会では、福岡県の文化振興並びに文化活動を側面から支援していただく企業及び個人の賛助会員（企業・団体1口：1万円、個人1口：5千円）を募集しています。この機会に、賛助会員として加入していただき、新たな県民文化創造へ継続的にご支援、ご参加くださいますようお願いいたします。

賛助会員に
対する特典

- 1 会報「県文連ふくおか」の送付(年2回)
- 2 会報とホームページへの賛助会員の掲載と紹介
- 3 その他、県文連主催行事、関係情報の提供

〈加入方法〉

福岡県文化団体連合会事務局

TEL.092-643-2875に連絡ください。

追って手続き書類をお送りしますのでよろしくご願いたします。